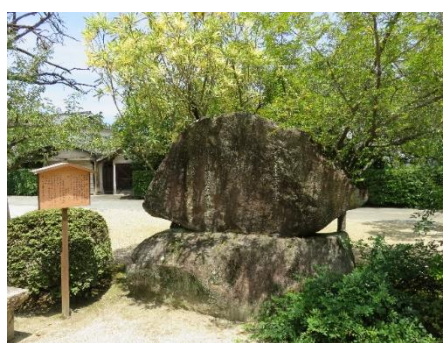


## 山口市文学碑巡り No.4 (龍福禅寺)

山口旧市内の商店街東詰、札ノ辻から南北に延びる**豎小路**を北に上り**大殿大路**との交差点を東に進むと、寺の参道が北に向かって延び、初夏の新緑、秋の紅葉が美しいイロハモミジのトンネルの先に**龍福禅寺**が建っています。**大内義隆の菩提寺**です。**毛利隆元**(元就の長男)が若き日に大内家に人質として送り込まれ、義隆に慈しまれて生まれ、長じて大内家の重臣の娘を**義隆の養女**として隆元に**娶せた**と言う経緯があります。大内氏が、家来の陶晴賢によって討たれたことからその追悼の意を込めて毛利隆元が建てた寺です。境内の中央あたりに**大内義隆の辞世の歌碑**が建っています。「**討つ人も 討たるる人も 諸ともに 如露亦如電 応作如是観**」と刻まれています。討つ人は陶晴賢、討たるる人は自分自身でしょうか？どちら側に立っても露や稲光りの如く所詮儚く一瞬のうちに消えてしまう無常がこの世であり、今のあるがままの姿が真実なのだと思えばいいのでしょうか。大内義隆は陶晴賢軍に追い詰められ、長門の**大寧寺**で自刃した45年の生涯でした。ここで大内氏の山口での隆盛は終焉を迎え、その繁栄の跡は五重塔など一部を残すのみとなりました。大殿大路に面した参道とは別に、豎小路側にも巨岩に龍福禅寺と彫った寺への入り口があります。その入り口のそばにひっそりと**哲学者西田幾多郎**ゆかりの建物の案内があります。その建物は、嘗て西田幾多郎が山口で旧制山口高校などで教鞭を執った時に止宿していた建物で、コロナ禍以前には彼を偲ぶ読書会が催されていた所です。

### 龍福禅寺参道と大内義隆辞世の歌碑



### 西田幾多郎ゆかりの建物と読書会案内板

